

塗 装 仕 様 書



ROCK PAINT

塗装略号	: LS2-FUE
塗装仕様	: 低汚染弱溶剤2液型フッ素樹脂塗料(塗り替え)
上塗塗料名	: 081ライン サンフロムルーフ
規格	: ー
素材	: 亜鉛メッキ鋼板、カラートタン、ガルバリウム鋼板など
部位	: 屋根

工 程	塗 料 と 施 工 内 容	シンナー名 希釈率%	標準塗付量 kg/m ² ・回	標準膜厚 μm・回	塗り重ね 可能時間 (23°C)
1	下地調整				
	旧塗膜ではがれかかった部分、フクレ部分は皮スキ、ワイヤーブラシ等のケレン具で、浮き塗膜、サビなどは、電動工具、手工具で除去する。 チョーキングした面、汚れ等はサンドペーパー等で除去し、乾燥した清浄な面とする。				
2	下塗り				
	061ライン 2液型サビカット(各色) 主剤 硬化剤 061-7910 配合比(重量) 主剤9:硬化剤1 塗装方法 刷毛・ローラー、エアレス 塗装回数 1回 塗布面積 106~123m ² /16kgセット・回	016-0059 塗料用シンナー 刷毛・ローラー 0~5 エアレス 5~10	0.13~0.15	—	4h以上 7日以内
3	上塗り				
	081ライン サンフロムルーフ(常備色) 主剤 硬化剤 081-1140 配合比(重量) 主剤9:硬化剤1 塗装方法 刷毛・ローラー、エアレス 塗装回数 1回 塗布面積 115~135m ² /15kgセット・回	016-0059 塗料用シンナー 刷毛・ローラー 5~15 エアレス 10~20	0.11~0.13	—	3h以上
4	上塗り				
	081ライン サンフロムルーフ(常備色) 主剤 硬化剤 081-1140 配合比(重量) 主剤9:硬化剤1 塗装方法 刷毛・ローラー、エアレス 塗装回数 1回 塗布面積 115~135m ² /15kgセット・回	016-0059 塗料用シンナー 刷毛・ローラー 5~15 エアレス 10~20	0.11~0.13	—	—

施工上の要点および注意事項

- 塗料をよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 気温が低いとき、湿度が高い場合には完全な塗膜ができにくく、十分な性能を発揮できませんので、塗装中および塗装後24時間は5°C以下にならない場所で使用してください。また湿度が85%以上の場合は塗装を避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- 有機溶剤を含有していますので、塗装作業中及び乾燥時の換気と火気厳禁を守ってください。
- 希釈には必ず専用シンナーを使用してください。他種のシンナーを使用すると塗料中の樹脂が破壊されて使用できなくなります。また必要以上に希釈するとたれや色分かれの原因になります。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーを使用してください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、また、天候不良の恐れがあるときは、外部の塗装は避けてください。
- 2液型塗料は、主剤と硬化剤を所定の配合比で混合し可使時間内に使用してください。
- 大きな素穴、目違い、不陸、クラックなどはセメントフィラー、樹脂モルタルで補修してください。補修後はシーラーを塗装してください。エマルジョンパテの外部での使用は避けてください。
- 吸い込みの多い面などを塗る場合は、各種ロック建築用シーラーで適切なものを使用してあらかじめ下塗りをしておいてください。
- 無機系、フッ素系などで処理した住宅系スレート(新屋根材)には、下塗りとして「ハイパーシーラーエポ」を使用してください。
- 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクサンダー、皮スキ、ワイヤーブラシなどで除去し、高圧洗浄を行った後、24時間以上乾燥させてください。(気温20°C、湿度65%の場合)
- 改修塗装の場合、下地の種類や処理方法によって付着不良やリフティング等の塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りを行った後、仕様を決めてください。
- 旧塗膜が活膜の場合、表面荒らしが必要な場合があります。またフッ素樹脂塗料への塗り替えには使用できないことがあります。弊社担当営業にお問い合わせください。
- 素地が濡れている時は塗装を避け、乾いてから塗ってください。また直射日光などで極端に熱くなっている時は、少し冷やしてから塗装してください。
- 乾燥過程で霜、夜露などの影響を受ける時間帯や、昼と夜の温度差が大きい時期は、結露による艶引け現象が起こる場合があるため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- 先に塗りにくいところを塗ってから、また高い所から下の方に降り口を確保しながら塗装してください。塗ったての面は滑りやすいので全体に乗り込んでください。塗り残しがあった場合も乾燥後に補修塗りをしてください。
- 作業時の安全には十分注意し、高所で作業する場合は安全ロープをかけて行ってください。
- 冬季においては、屋根上の雪が滑りやすくなることが想定されます。安全確認を行い、屋根に滑り止めなどの付帯設備を設置するなど対策をとることをお奨めします。
- 鉄、非鉄金属部に塗装する場合は、必ず下塗りに適性のあるサビ止めペイントを塗装してください。
- サビについては完全に除去後、削りカス(サビ、鉄くず)を完全に除去してください。サビの発生の原因となります。
- 溶接接合部や下塗りにキズがある場合は、その部分が塗膜不良となりやすいので、素地調整後、補修塗装を行ってから塗装してください。
- サビ止め塗装を工場で行う場合、下塗り塗膜のみで長期間放置しておりますと塗膜が傷ついたり劣化したりしますので、被塗物の保管、運搬に注意し、速やかに上塗り塗装してください。
- トタンの折り曲げ部分、継ぎ目部分などは、膜厚が得られない場合がありますので、先に拾い塗りすることをお奨めします。
- 亜鉛メッキ鋼板の目付量が多い場合には、3~4か月屋外放置後表面の光沢がなくなってから塗装してください。

塗 装 仕 様 書



ROCK PAINT

塗装略号	: LS2-FUE
塗装仕様	: 低汚染弱溶剤2液型フッ素樹脂塗料(塗り替え)
上塗塗料名	: 081ライン サンフロンルーフ
規格	: ー
素材	: 亜鉛メッキ鋼板、カラートタン、ガルバリウム鋼板など
部位	: 屋根

- ・ 上塗り塗装は必ず2回塗り以上で仕上げてください。
- ・ 061ライン 2液型サビカットの可使用時間は5時間(23℃)、3時間(30℃)です。
- ・ 硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がりが外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。
- ・ 硬化剤を配合した塗料は、時間の経過と共に増粘・固化して使用できなくなります。配合した塗料は可使用時間内に使い切ってください。
- ・ 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず実施してください。上塗りとの付着性が低下します。
- ・ 061ライン 2液型サビカットの硬化剤はアミンフリー性の少ない、主剤との相溶性にすぐれたアダクトタイプですが、施工時及び硬化するまでの間、低温(5℃以下)になる箇所への使用はできません。
- ・ 塗料液と硬化剤には、湿気と反応する成分が含まれています。貯蔵の際は密栓し冷暗所に保存してください。また、開栓後はできるだけ早めにご使用ください。水・アルコール系の溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・ 081ライン1000番級 サンフロンルーフの硬化剤はイソシアネート化合物を含んでおり、スプレーダストを吸引すると鼻、のど、気管支などに障害を起こすおそれがありますので、換気を良くし、適切なマスクを着用して作業を行ってください。過去にアレルギー症状を経験している人は取扱わないでください。
- ・ 低汚染性については被塗物の種類や建物の形状により、また、施工後特に塗膜が十分に乾燥する前、もしくは乾燥して初期の段階で天候不良であった場合、その効果が十分に発揮されない場合があります。
- ・ 防藻・防カビ効果は繁殖を抑制するために、既に発生している被塗面には、下地処理として除去および防藻・防カビ処理剤などで殺菌処理した後、塗装してください。
- ・ 1液溶剤型シーラーを下塗り塗装後、サンフロンルーフを塗装するとちぢみが発生する場合があります。適切なシーラーにつきましては、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ・ 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- ・ 硬くてまだツヤのある塗膜や、吸い込みの無い面に塗装する際は、あらかじめサンドペーパーで面を荒らしてください。
- ・ 下地、旧塗膜が脆弱な場合、また素材が強アルカリ性であることが予想できる場合は、弱溶剤型シーラーを使用してください。また改修塗装で弱溶剤型のシーラーを使用した場合、旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので、試し塗りをした上で本塗装を行ってください。
- ・ 塗り替えした塗膜は以前の塗膜と比較して、光沢、平滑性が向上し一般的に滑りやすい傾向にあります。塗装後の屋根上での作業には十分に注意してください。
- ・ 081ライン1000番級 サンフロンルーフの可使用時間は6時間(23℃)、3時間(30℃)です。
- ・ 新設塗装の場合は素地に適したシーラー・プライマー・フィラー等を下塗りしてください。
- ・ 塗装間隔(乾燥時間)は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより多少変わります。
- ・ 塗装間隔は守ってください。塗装間隔が長くなりますと付着性が低下して上塗り塗料と層間剥離を起こすことがありますので注意してください。
- ・ 各工程の塗装間隔、塗付量や希釈量を守らなかった場合塗膜不良となることがあります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- ・ 下塗り塗料塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- ・ 塗装後24時間以内に降雨、結露があった場合、白化やシミが残る場合があります。また、低温時や高湿度、通風が悪い場合も白化やシミになる場合があります。
- ・ 塗装方法により多少色相が異なることがありますので、入り隅のハケ・ローラー境目はできるだけ奥までローラー塗装してください。
- ・ 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗付量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- ・ スプレーノズルの先端は、時々洗浄してください。作業効率の低下および塗りムラの原因になります。
- ・ 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- ・ 塗色が濃い場合、塗膜を強くこすると色落ちすることがありますので注意してください。
- ・ カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- ・ 本仕様中の製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分注意を払うようご指導ください。
- ・ 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗りたてであるなどの立て看板等を設置し、化学物質過敏症並びにアレルギー体質の方が接することのないようにご配慮願います。
- ・ 掲載されている塗料の詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。
- ・ 取扱いの際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび労働災害事故防止のため、安全データシート(SDS)をよく読み、注意事項を厳守してください。